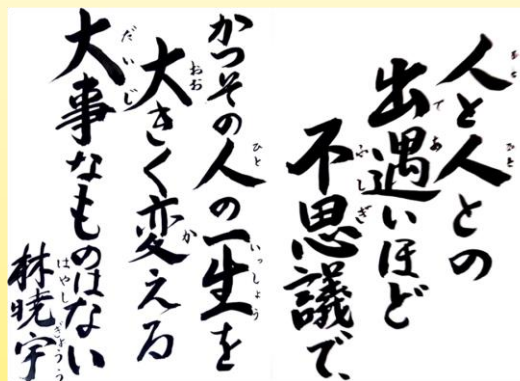


今月のことば



浄土真宗の僧侶、林暁宇さんの著書『もしよきひとにあわざれば』より。「あう」には様々な漢字と意味がありますが、遇は、たまたまの出会いをあらわします。そのことが一生を変え得る大きな出来事だと。春は出会いと別れの季節。目の前の人と大切に向き合いたいものです。

四月同朋会 お花見会

新年会の延期を受けて、4月の同朋会では下記の通りお花見会を開催したいと思います。お天気が良ければ桜の下で、そうでなければ同朋会館でお弁当を食べながら親睦を深められたらと思います。どうぞご参加ください。

記

令和7年4月12日(第二土曜日)

時 12:00~14:00

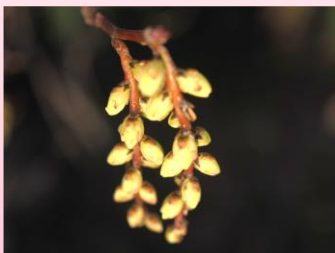
会費 2000円

いつもより**開始時間が早い**のでご注意ください!



同朋会員以外で参加希望の方は、準備の都合上**4月5日**までに徳泉寺**(022) 297-4248**までご連絡をお願いします。

境内の花々



キブシ (木五倍子)

ぼうもりのひとりごと

今年の仙台、桜の開花宣言は4月5日だとか。ということは徳泉寺のシダレザクラの見頃がそこ、ということになります。きっと梅も桜もミモザも木蓮もいっぺんに咲いて花盛りとなることでしょう。どうぞ春を楽しみにお越しください。

住職法話「五劫思惟之摂受 重誓名声聞十方」より
私たちは「わかつている」と思い込んで本当のことに出あえない、ということがあります。「わかつている」と思うからこそ「わかつていない」ことに気づけない。私の周りに思いが巡らされていて、本当のことに気づいていないことにも気づけない。思い込みによって明かりが無い状態を「無明」と言い、煩惱の一番深い闇だと言われています。そんな私たちが真実に気づくためにはどうしたらいいのか、法蔵菩薩は長い時間考えて考えて全ての人々に「南無阿弥陀仏」を届けたいという誓いを立てました。

前住職法話「真宗は難しい?」
私たちは自分を変えないで他の力によって状況を変えようとしています。念仏もその手段のひとつだと思ってしまうとそれは違う。だから難しいと感じてしまうのです。「南無阿弥陀仏」は称えることで願い事を叶える呪文のようなものではありません。念仏は称えるものという固定概念を破って「聞名」が重視されます。つまり「南無阿弥陀仏」と声に出して念仏するのは阿弥陀仏の名前を、そしてその名前が表す願いを耳から聞くためであるのです。称えることが主ではなく「聞くこと」に意味があります。念仏をして何かを変えようというのではなく、念仏するということとが私が変わるということ。「念仏申す」ということは「この身が明らかになる」ということであり、身の事実を目を開くことなのです。